

フィラリア予防

フィラリアってなんですか。

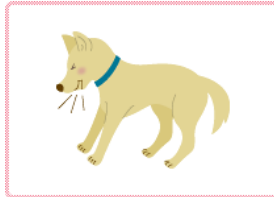
フィラリアは糸状虫ともいい、成虫は20cmほどの糸状の虫です。この成虫が心臓や肺の血管に寄生することにより、全身への血液の循環が障害されます。

また、雌フィラリア成虫が産んだ多数の子虫(マイクロフィラリア)が肝臓・腎臓など全身の臓器内の血管に詰まることで、機能が障害され、さまざまな症状が出ます。

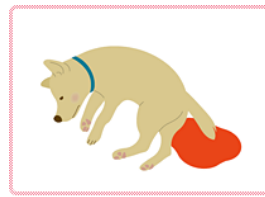
初期では、元気がない、食欲がないなどですが、しだいに、乾いたせきをする、おなかがふくらむ(腹水)、赤い尿(血色素尿)が出るなどの症状が見られ、死亡することも少なくありません。



元気がない



セキが出る

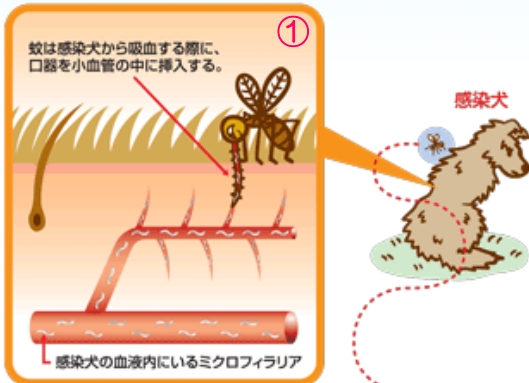


尿が赤くなる

フィラリアはどうやって感染するのですか。

蚊が媒介します。

犬フィラリアの蚊への感染

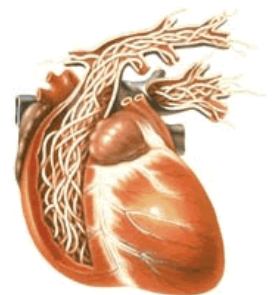


犬フィラリアの犬体内における発育



- L3は3~10日で脱皮して体内移行幼虫(L4)になる。
- 体内移行幼虫は、組織内で発育し、犬への感染後70日前後で未成熟虫(L5)になる。
- 犬への感染後約120日前後で未成熟虫は血管内に侵入し心臓および肺動脈へと移行する。

④



犬の心臓に寄生した犬フィラリア

②

犬フィラリアの発育段階	存在場所
L1 マイクロフィラリア	感染犬の血液中 ⇒ 蚊
L2 第2期幼虫	蚊の体内
L3 感染幼虫	蚊の体内 ⇒ 犬の体内(組織)
L4 体内移行幼虫	犬の体内(組織)
L5 未成熟虫	組織 ⇒ 血管内
成虫	肺動脈・心臓

正常犬



メリアル・ジャパン(株) HP より改変

- ① フィラリア成虫が寄生している犬の血液中には、とても小さなフィラリアの子虫(マイクロフィラリア)が多数含まれています。蚊がこの犬の血を吸うときに、一緒にマイクロフィラリアも吸い込みます。
- ② ミクロフィラリアは蚊の体の中で成長して感染幼虫というものになります。
- ③ 健康な犬を吸血するときに、この感染幼虫を健康犬に注入してしまいます。
- ④ 健康犬の体内に入った感染幼虫は皮膚から、筋肉、毛細血管へと進み、成虫となって寄生の最終地点である心臓にとどまります。

フィラリアの予防とは何ですか。

蚊に刺されないようにすることはほぼ不可能です。フィラリアの感染幼虫がワンちゃんの体内に入り込んでしまうことは避けられません。

フィラリアの予防とは、この後の段階、つまり、**フィラリアの幼虫が皮膚から筋肉を経て、血管内に入り込むまでの間に、幼虫を薬によって死滅させること**です。このことで、フィラリアが成長して心臓に寄生することを防ぎます。

したがって、**フィラリアの予防期間**は蚊が発生し始めた時期よりもやや遅い時期(約1ヵ月後)から、蚊が見られなくなる時期の約1ヵ月後までの期間(**この地域では5月下旬から12月上旬ごろ**)となります。



フィラリアの予防時期は5月下旬から12月上旬まで。
1ヶ月に1回の飲み薬で簡単に予防できます。